



小さいたら  
あつまろう

小さいとこサミット  
参加資格  
チェックリスト

- 『予算が余った』とか言てみたい。
- 専従職員は3人以下。
- 主要な仕事はバイトがしている。
- 『来年はどうなるのかなー』といつも考える。
- 人数は少ないけど、スタッフは多才で働き者。
- 展示の基本は「手づくり」と「借りてくる」だ。
- フラシモホスターも自分たちで作る。
- 1人でも病気になると大ピンチ。
- 指定管理に興味がある。
- 他の「小さいとこ」がどうしているのか、知りたい。

小さいとこサミットは、  
ひとつでもはまるあなたに  
ぴったりです。

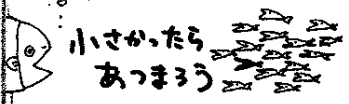
小さいとこ  
あつまらない？

# 小さいとこ サミット

～小規模館園のつどい～



日時：平成22年2月22日（月） 13：00～16：30  
 会場：芥川緑地資料館 あくあぴあ芥川 3階多目的ホール  
 主催：芥川緑地資料館  
 後援：NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク



# 小さいとこサミット

## ●趣旨●

今日の構造的不況の中で各自治体の自然系博物館等の文化的施設の自立や存続が危ぶまれています。そんな中で芥川緑地資料館(あくあびあ芥川)を、本年4月よりNPO芥川倶楽部と(特非)大阪自然史センターの共同活動体が高槻市より指定管理者として受託し運営を行っています。NPOが地域博物館(運営)し、市民により親しまれる新しい交流の場としていくために、これまでの館との違いを意識しつつ、時には行政の思いとのずれに悩んだり、戦ったりして進めています。

昨年4月に当館で開催しました連続講座の中で、基調講演をお願いしました兵庫県立人と自然の博物館副館長・あくあびあ芥川顧問 中瀬勲氏から、まとめの中で小規模博物館の良さを広く情報発信し、より地域に根ざした元気な博物館になって行くために、「小さいとこサミット開催」が提案されました。

本日は、その提案をもとに「小さいとこサミット～小規模館園のつどい～」を開催します。市民と連携し活動している自然系の地域博物館を中心に、各機関からの報告やフリートーキングで刺激を受け、互いにレベルアップできるステップにしましょう。

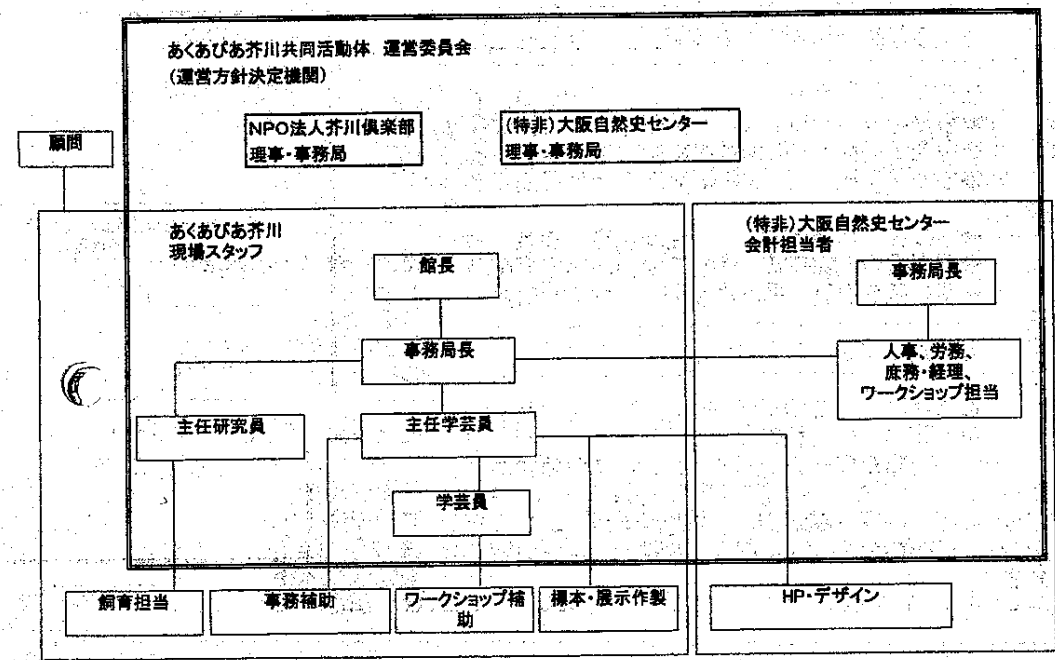
## ●プログラム●

- 13:00 講演 「芥川緑地資料館 あくあびあ芥川」 田口 圭介(同館 館長)
- 13:20 講演 「篠山チルドレンズミュージアム」 森岡 武氏(同館 館長)
- 13:40 質疑応答
- 13:50 講演 「伊丹市昆虫館」 坂本 昇氏(同館 主任学芸員)
- 14:10 講演 「佐用町昆虫館」 八木 剛氏(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)
- 14:30 質疑応答
- 14:40 休憩
- 15:00 座談会・意見交換 コーディネーター  
白木 江都子氏(特非法人 自然史センター理事)
- 16:30 閉会

## ●懇親会●

本日18時から、高槻駅周辺で懇親会を予定しています。ぜひご参加ください。  
会費：4000円程度  
当日参加ご希望の方は受付までお知らせください。

## あくあびあ芥川共同活動体組織図



## ○あくあびあ芥川共同活動体○

あくあびあ芥川(芥川緑地資料館)は高槻市の指定管理制度のもと、2009年4月から、あくあびあ芥川共同活動体(NPO法人芥川倶楽部と特定非営利活動法人大阪自然史センター)によって運営されています。



芥川倶楽部は現在よりも豊かな生態系の回復を目指して、芥川の自然、歴史を守り育て、市民と芥川に触れ合う機会を作り、生き物との触れ合いを通じて、市民の心の豊かさを回復する、そんな芥川を目指し、多くの人々とネットワークを構築して活動するNPOです。



大阪自然史センターは自然をみつめ、自然を学ぶ楽しさを伝えるため、大阪市立自然史博物館と協力し、自然史科学の発展と普及に取り組んでいるNPOです。

みんなの笑顔がいっぱい、楽しく学べるあくあびあを目指してがんばっています。



あくあびあ芥川現場スタッフ

- 館長 田口圭介
- 事務局長 小柿正武
- 主任学芸員 高田みちよ
- 主任研究員 花崎勝司



あくあびあ  
芥川の  
運営にかかわる  
スタッフたち

- 学芸員 吉見知恵
- 飼育担当 山中みのり、島田康平
- 事務スタッフ 菊池めぐみ、児玉敬子

自然史センタースタッフ

- 事務局長 森口貴子
- 事務局 川上和歌子
- 事務局兼ワークショップ担当 西崎恵美子
- HP・デザイン担当 熊崎さくら
- 標本整理、展示担当 西澤真樹子
- ワークショップ補助 阿部紀子、河島明子

顧問 中瀬勲

運営委員 (芥川倶楽部)

- 山崎文男
- 山本忠雄
- 川上隆

運営委員 (自然史センター)

- 道盛正樹
- 梅原徹
- 白木江都子
- 佐久間大輔
- 和田岳

講演者プロフィール

- 名前：田口圭介
- 所属：あくあびあ芥川 館長
- 略歴：

昭和40年に大阪府入庁し、大気汚染の研究に携わる。植物による大気浄化についての調査研究や庁内で環境教育研究会を立ち上げ、環境学習プログラムの開発を手掛けた。

平成14年3月に退職、2年間(財)下水道技術センターに勤務し高槻処理場で分析業務に携わった。

一方、市民として、昭和46年に高槻公害問題研究会 (TKK) を立ち上げ、高槻の環境問題に取り組む。芥川での生き物調査、市内ヒメボタル調査、ムカシトンボの保護活動やポンポン山ゴルフ場反対運動の事務局も引き受けた。昭和49年から毎月始めたTKK自然観察会は現在も継続している。平成17年に大阪府・高槻市も入ったネットワーク芥川倶楽部が出来、代表を務める。

平成20年にNPO芥川倶楽部ができ、翌年4月から、(特非)大阪自然史センターと共同活動体をつくり、芥川緑地資料館の指定管理をうける。

山っさいから  
元氣!

...山っさいの  
人って  
おもろいばあ。

■小さいとこサミットに参加を希望していたけれど、

小さいとこゆえの理由で参加できなかった皆さん

・大阪府貝塚市:貝塚市立自然遊学館:岩崎拓さん  
「月曜日が閉館日ということと、あまりにも小さすぎて人が足りず  
いけません。参加資格はじゅうぶんなのですが」

・滋賀県甲賀市:みなくち子どもの森自然館 小西省吾さん  
「当館は正職員や嘱託・臨時職員を合わせて9人が勤務していますが、  
交代勤務となるため、いろいろ相談をする機会が意外にありません。  
(略)この会議日とサミットが重なってしまいました」

・新潟県十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ:永野昌博さん  
「この時期、報告書、年度末事務の山に追われ  
戦っているころと思われ、  
残念ながら、その戦場を離れるわけにはいきません。」

奈良県橿原市:橿原昆虫館:日比伸子さん、木村史明さん  
「常設展示リニューアルの作業が忙しくなりいけません」

■小さいとこサミット参加のみなさん

宮武頼夫	榎原市昆虫館友の会
水野辰彦	シニア自然大学校研究部昆虫科
平田慎一郎	きしわだ自然資料館
金尾滋史	多賀町立博物館
北村美香	滋賀県立琵琶湖博物館
河島明子	(特非)大阪自然史センター
山下治子	アム・プロモーション
松田千鶴	五月山児童文化センター
稲本雄太	大阪市立自然史博物館友の会
辻村朋子	東近江市能登川博物館
肥山陽子	近江富士花緑公園
函師宣忠	きしわだ自然友の会
大谷剛	兵庫県立人と自然の博物館
佐藤拓二	自然遊学館わくわくクラブ
鈴木榮一	国崎クリーンセンター啓発施設 ゆめほたる
中尾博行	「水のめぐみ館」アクア琵琶
中瀬勲	あくあびあ芥川 顧問
鈴木芳徳	静岡科学館 る・く・る
岩佐果林	なにわホネホネ団
山田虹太郎	近畿大学・なにわホネホネ団
舟越晃太	近畿大学・なにわホネホネ団
五月女賢司	国立民族学博物館
猪熊理恵	淀川資料館
中谷裕輔	近畿大学
中江環	太地町くじらの博物館
白木茂	自然遊学館わくわくクラブ
中内未来	近畿大学

だから、  
小さいとこサミット  
あつまらない？

講演者プロフィール

■名前：坂本昇 (さかもと のぼる)

■所属：丹市昆虫館 主任学芸員

■略歴：1995年より伊丹市昆虫館に勤務。各種チョウ類の飼育繁殖、食草栽培を担当しながら、教育系出身の学芸員として、各種教育普及事業を担当。利用者の視点を大切に、ワイワイ楽しみながら学びにつながる場づくりを目指している。生きた昆虫を題材にした講座や観察会の開催、学校向けプログラム、ボランティア運営、展示づくりなどに取り組んでいる。現在、企画展「ごきぶり」開催中。

■名前：森岡 武 (もりおか たけし)

■所属：(株)地域計画建築研究所 大阪事務所 第2計画部 計画主査

(財)兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所登録研究員

篠山チルドレンズミュージアム 館長

■略歴

平成6年 京都工芸繊維大学工芸学部都市計画専攻卒業

平成8年 京都工芸繊維大学工芸科学研究科博士前期課程終了造形工学専攻

平成8年 (株)地域計画建築研究所 大阪事務所 入所 (現在に至る)

平成17年 (財)兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所登録研究員 (兼務)

平成20年 篠山チルドレンズミュージアム館長 (兼務)

■業績

◆建築計画・設計・監理

三木市馬事公園内施設 (ビジターセンター、ふれあい館)、豊岡市コウノトリ関係施設 (コウノトリ文化館・エコハウス・コウノトリ本舗) 上山高原エコミュージアム内施設 (ビジターセンター、サブ拠点、山小屋) など

◆緑の基本計画:三田市、宝塚市、箕面市、豊中市 など

◆環境基本計画:姫路市、豊原川市、宝塚市 など

◆農村 (農業) 振興計画、農村環境計画

青垣町、八千代町、三田市、宝塚市 など

◆地域づくり・まちおこし

青垣町集落づくり (東芦田集落空農計画、江古花園、稲土棚田オーナー制度、登録有形文化財保存実施計画など)

豊岡市集落づくり (コウノトリの郷グランドビジョンなど)

◆その他

環境経済戦略 (豊岡市) まちブランド戦略 (青垣町C1、丹波市C1、丹波篠山築城400年祭プロデュース、JR姫新線C1)

ツーリズムビジョン (三田市、篠山市)

横尾川ダム広域計画 (大阪府)

社会基盤学習システム構築 (兵庫県)

平成17年～ 丹波の森研究所登録研究員

■名前：八木 剛 (やぎ つよし)

■所属：兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

■略歴：1968年大阪市浪速区生、西淀川区育ち、神戸市東灘区在住。

大阪(北野高校、神戸大学農学部、同大学院農学研究科修了、1992年から兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)研究員。研究分野は生物地理学、材料はヒメボタル。中学生の頃より大阪市立自然史博物館に入り浸り、学生時代は同館友の会評議員として「薫陶」を受ける。ひとはくでは、フェスティバルの立ち上げ、ボランティアコーディネーター、中学生向けセミナーなど、いろいろ。現在、NPO 法人こどもとむしの会の事務局庶務担当として、佐用町昆虫館のスタートアップに努力。「昆虫リテラシー」の向上がライフワーク。今日のテーマは「小さいことはいいことだ!!」。佐用町昆虫館に軸足を置き、ひとはくの立場を織り交ぜて話をする。ひとはく1館の予算で佐用町昆虫館が200館運営できる。恐竜は絶滅したが昆虫は繁栄している。小さいことにどういうメリットがあるか、繁栄するにはどうすればよいか、提起してみたい。

■名前：白木江都子 (しらき えつこ)

■所属：NPO大阪自然史センター理事、自然遊学館わくわくクラブ事務局

■略歴：大阪府立大学 農学部卒業

私立追手門学院高等学校生物科教諭 (S41~44)

貝塚市立自然遊学館を昨年退職